

日本福祉大学 松本オフィス 第14号 松本オフィス通信

INDEX

■長野県ふるさと実習	1	■エッセイコンテスト	5
■2013 信州+ (プラス)	3	■寿齢讃歌 写真展Ⅷ	5
■みんなで信州に帰ろう	4	■アート&クラフト展	5
■大学セミナー	4	■2014入試情報	6
■福祉スタディ・ツアー	5	■長野県地域同窓会より	6

長野の「ふくし」を学んだふるさと実習～2013年度社会福祉士実習の学生メッセージ～

3年生20名がエントリーした長野県内での社会福祉士実習は、長野県社会福祉事業団やJA長野会などの5社会福祉法人の協力を得て、長野市、上田市、松本市、塩尻市、駒ヶ根市、高森町など11か所で行われました。

各施設での実習担当者による指導のほか、実習指導の講習修了者による巡回指導、小松理佐子教授による実習指導など、現場と学生をむすんだ多彩なメンバーによる実習指導が展開されました。参加した学生からの300文字メッセージを紹介します。

実習を通して考えた利用者主体

宮下 風香

今回の実習を通して、利用者の希望や不安に寄り添う上で様々な工夫をこらすことも一つの利用者主体だと思えるようになった。施設ではよく「家に帰りたい。」といった声が聞かれた。そこで、「家に帰りたいとおっしゃっているから家に帰す。」といったような直接的援助は実現できなくても、まず利用者の気持ちに寄り添う。そして、なぜ家に帰りたいのか聞き出し、家族に会いたいのであれば、ご家族に面会の回数を増やして頂く等働きかけることなどである。

ここで中心となつて利用者との環境との調整を行えるのがソーシャルワーカーだと思ふ。本人の希望を初めから否定せず、周りに働きかけたり、本人とともに望みに近づけるよう道を模索していくことが利用者主体ではないかと考えた。

(飯田風越高校出身)

なぜそのような行動を？

武田 紗也加

私は障害児施設で実習をさせていただきましたが、実習は決して楽しいことばかりではありませんでした。

自分の思い通りにならないとぐずつてみたり、暴言を言われたりと毎日大変でした。

しかし、これは児童がうまく自分の気持ちを表現できないからだと考え、気持ちや相手に伝える方法や、相手が言われて不愉快な気持ちにならない言葉の伝え方を児童と一緒に考えました。すると少しずつ、みんな話し方に気を付けてくれるようになりまし

た。これが実習中うれしかった出来事です。現場で大事なことは、いかに児童の気持ちを汲み取るかだと思ふます。そしてなぜそのような行動をするのか常に疑問を持つこと。これは障害児分野に限らず、学生が社会福祉士実習を行う上で大切な点だと

(下諏訪向陽高校出身)

考えることの大切さを知った

植田 雄介

長いようであつたというまに終わってしまった24日間の実習でした。

日々、感じることに、考えることばかりで答えが見つからず自分が嫌になることもありましたが、施設の職員の方から様々なアドバイス頂きながら乗り越えることができました。

実習中は日々の大学の講義からだけでは学べないものがあり、嬉しかったこと、楽しかったこと、辛かったこと、全てを感じながら取り組んだことに対して自分の中で考えることが習慣になり、実習終了時には自分の中でも(少しながらですが)成長を感じる事ができました。

ここから実習で得た経験をもっと大きなものにして成長していきたいと思ふます。

(伊那弥生ヶ丘高校出身)

信頼される相談員に

上條 和佳奈

4週間の実習が始まる前、将来何をしたいのか迷うばかりで、何を目標としたらよいのか、不安だらけのまま実習が始まりました。

実習中、社会福祉士である相談員の方と利用者さんの関わり方を見て、相談員は利用者さんにとつて信頼できる存在であり、心の支えであるということを感じました。現場の幅広い業務を行つており、とても大変な仕事だと感じると同時にやりがいのあることのできる仕事だと思ふました。

利用者さんが心から信頼できる相談員を目標として、これからとつと学びを深めていきたいと考えることができるようになりました。

(塩尻志学館高校出身)



緊張と不安の中から

竹村 祐香

私にとつて実習の24日間は、今までの自分と向き合い、そしてこれからの自分について考えることができる時間になりました。

実習が始まった頃は周りの人にも分かるくらい緊張していて、自分らしく利用者に関われるのか、施設の雰囲気慣れたいけるのかという不安ばかりでした。しかし、時間が経つにつれて利用者に関わることでしか得ることができない楽しさを感じたり、学校では学べない実際の専門職の仕事の様子を見ることができ、相談員のイメージが明確になつてきたと思ふます。実習を通して、現場はまだまだ知らないことばかりであると実感できたため、今後もしっかりと学んでいきたいと改めて思ふました。

(赤穂高校出身)

◇お知らせ◇

2014年3月9日(日)、ふるさと実習を行った20名の実習報告会を開催します。ここには書ききれなかった、実習での体験談や思いなどを報告します。詳細につきましては、6ページをご覧ください。

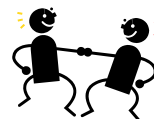


言葉じゃなくても伝わる

米山 果歩

実習を通し、学んだ中のコミュニケーションについてこ
では書きたい。

コミュニケーションには、様々な方法がある。
私は、スキンシップ、表情、声色等の非言語コ
ミュニケーションを大切にしたい。「おはようご
ざいませ」の一言や、余暇活動の時間には利
用者の手をとってリズムをとったりと様々な
工夫をした。その中で、もつと人を好きになつていく事、
スキンシップの返答が返ってくる喜び、少しずつ関係性が
築かれていく実感があつた。



一人一人の状態や状況に合ったコミュニケーションを図
ることは、その人らしく暮らすために何が必要かを見つ
ける第一歩だと感じた。これらから、本当の意味での
「寄り添う」という事を心と体で学ぶ機会になつた。

(飯田女子高校出身)

支援の最善

赤羽 奈津恵

私は実習で福祉の難しさを改めて感じた。それは個
別支援計画を立てる時に、実習担当の方から頂いた言
葉がきっかけだった。

私は個別支援計画を立てる上で何が正解なのかを悩
み、なかなか進めることができなかった。その時、「福祉
はある人について考え、支援することだからはつきりと
した正解、不正解はない。ただその支援がその人にとつ
て最善のものかどうかを考え、判断する必要がある
。」という言葉を受けた。

その力をつけるためには福祉の現場で感じ、時には失
敗しながら学んでいくしかない。だから福祉は経験がと
ても大切で、そこから自分がどう感じその後どう行動
していくかが左右されると感じた。大学の学びだけで
分らない、現場に出てからも時間をかけて理解する
必要があることを私は痛感した。同時に、現実を理解
するための方法を学ぶ大切さも。

(塩尻志学館高校出身)

泣きたくなることもあつた

松本 奈弓

実習先では、ドライブ外出・買い物外出などの多
くのイベントに参加させてもらえた。なので、実習
自体は楽しかったというのが第一印象である。最初
は話しかけても反応してくれなかった方が、4週間
の関わりで利用者の方から話しかけてきてくれた。
信頼関係が築けたようで嬉しかったし、感動した。

けれど、楽しかったり感動したことばかりではな
い。障害のある子供たちとの関わり方が分からず
戸惑い、職員の方にもなかなか聞けず苦しいことも
あつた。他にも、子供たちに髪の毛をつかまれたり
叩かれたりして泣きたくなることもあつた。

今回の実習では、多くの体験から今までの知識
がかなり浅いものだったことに気づいた。改めて障害
特性について学ぶ実習であつたと思う。

(長野市立長野高校出身)

長野県の良さを体感

富松 彩夏

実習初日は、緊張と不安でいっぱいでした。しか
し、地元ということでの土地ならではの話で盛り
上がることで、すぐに緊張と不安は
なくなりました。



住んでいる所やきのこなどの食べ物
の話、小中学校の話や昔はどうだったかな
ど話してくださいました。ふるさと実習
であつたからこそこのような話をたくさんすること
ができ、ボキャブラリーも増えたように感じていま
す。また、方言も強みであると思います。同じ方言
を使うことで親しみを持つことができ、若い人が使
わない方言については話題となります。

長野県の良さを利用者さんから教えていた
き、改めて将来は地元で貢献できる仕事に就きた
いと思えた実習でした。

(塩尻志学館高校出身)

声かけの必要性

百瀬 史也

利用者を介助するときには必ず声かけを行う。
例えば立位、車イスの利用者を押し出すとき、
止まるとき、入浴時の服の着脱のときなど一つひ
とつの動作で声かけが必須であると職員の方に教
えていただいた。その理由は第一に利用者の安全
を守ることや急に介助をして驚かさないようにす
るためなど事故防止のためである。

また、これはコミュニケーションの一つであり、利用
者も安心してサービスを受けられ、そこでまた信
頼関係が生まれ、お互いに気持ちの
良い関係を築くことができる。言葉
での会話ができず、意思疎通もでき
ない利用者に対しては同様に声か
けをすることが必要だと学んだ。

(松商学園高校出身)



進路の悩みを抱えて実習へ

浦野 稔世

私は、実習に行く前、進路について悩んでいま
した。ソーシャルワーカーという仕事に自分に向い
ているのか、本当にやりたい仕事なのかと考えていま
した。

今回の実習は、これらを考えるいい機会になり
ました。実習は高齢者デイケアで行い、多くの利
用者さんと職員さんと関わりをもち、その中で聞
いているだけで辛くなるようなこと、逆に楽しくな
ることなど様々な体験をしました。

また、生の現場で働くワーカーと出会い、仕事
に対する明確なイメージをもつこともできました。
これらの体験から、辛いことも多くあるけど
やりがいのある仕事であると実感することができ
、将来本気でやってみようという仕事であると考えら
れるようになる、充実した4週間でした。

(さくら国際高校出身)

2013
信州
+

2013年度は、地域の活性化にむけた学生のフィールドワークがこれまでもまして広がりました。

辰野町川島地区のまちづくりを支援 -地域プロジェクトの活動-

後藤順久教授が指導する地域研究プロジェクトでは、今年度独立行政法人福祉医療機構から助成金を得て、準備期間を含めると、ほぼ1年にわたって、辰野町川島地区の振興会・住民の方々と協力してさまざまな地域づくりの活動に参加してきました。

社会福祉学部、経済学部のほか、子ども発達学部の学生の参加もあり、参加学生が広がっているのが特徴です。以下、学生のReportから。

「花街道整備」その1



6月22日、23日に「花街道整備」の実施のため、川島地区の方々との畦に1千本の植栽をしました。秋には満開のドーム菊で彩られた花街道をたくさんの人に歩いてもらいたいという思いからですが、地域の方の手際の良さには驚きました。午後から、今後の事業の進め方、特に元気ウォーキングについて、川島地区の方を含めた、会議に参加させていただきました。少子高齢社会が急激に進んでいるという現実を改めて知り、地域住民と学生で今後の対策を話し合いました。

「また来たい！」にとどまらず、「ここに住みたい！」と思ってもらえるにはどうしたらいいのか。そんな切実な問いかけもあり、この地域を活性化させたいと思うならば、学生自身もつと真剣に具体案を考える必要や、住民さんたちの声に寄り添う必要があると感じました。

ひとつの課題は川島地区のPR方法です。今後どのようなPR方法や内容がより魅力を感じてもらえるかを考え、1人でも多くの方に訪れてもらえるよう、交流人口を増やす努力していきたいと思っています。



「花街道整備」その2

10月6日(日)に辰野町のかやぶきの館の駐車場で、「花街道の整備」事業を実施しました。100個のプランターに3種(シクラメン、ストック、花胡椒)の花をそれぞれ1つずつ、計300の花を植え、それらをかやぶきの館の入り口や公民館などに設置しました。

小学生から高齢者まで幅広い年代の人がこのイベントに参加し、多世代交流・多職種交流ができました。高齢者だけでなく、若年層の参加もあり地域活性化につながるイベントでした。また参加者の多くが男性でしたが、多くの女性の参加ができるようなイベントも開催していきたいと思えます。地域の集まりは男性が参加するという習慣が出来上がっているようです！

イベント終了後に参加者にアンケート調査を実施しました。これは参加者の性別や年代、職種、このイベントの満足度などを知るためです。この調査から、60歳を超えても仕事をしている人も多くいることが分かりました。高齢であっても元気に仕事をし、このような地域交流ができています。高齢者を中心とし、若年層がさらに盛り上げていけるような地域になるよう活動を続けていきたいと考えています。



高齢者と元気ウォーキング

10月19日(土)、「元気ウォーキング」というイベントを主催しました。当初は400名の参加を目標としていましたが、悪天候のため100名の参加のもと、イベントが行われました。

ウォーキングではかやぶきの館をスタートし、熊野神社など川島地区の史蹟をまわり、再びかやぶきの館に戻るといった全長約5.5kmのコースを歩きました。川島振興会の方が3つのポイントの説明をしてくださいました。参加者の方たち



は、その説明を興味深く聞き、中には資料をもらう姿が見られました。

イベント終了後に行ったアンケート調査の結果から参加者の約6割が60代、70代の高齢者の方たちであったことが分かりました。その他には小学生や外国人の若者の参加もみられました。またアンケート調査において、このようなイベントを続けてほしいという回答が多数寄せられ、今後もこのような活動を継続していく必要があると感じました。



これらに続き、介護予防の「はつらつ教室」や「認知症理解教室」なども予定されています。

自治体連携による震災対策はじまる

予想される南海トラフ大地震対策として、宮田村の呼びかけによる日本福祉大学・連携7自治体の広域防災協定の検討が進んでいます。

これは、愛知、長野、富山、山形の4県にまたがる7自治体と日本福祉大学が協力して大地震に備えようとするもので、10月17日には第一回の防災会議が美浜キャンパスで開かれました。参加自治体からはそれぞれ大規模災害への対策が紹介された後、本学教員から、震災を克服していく上で、地域の福祉コミュニティづくりが大切であり、自治体ぐるみ、地域ぐるみの取り組みが急がれていることが強調されました。

東北・山形県最上町と大学の地元美浜町は、直線距離でも900キロ余も離れているなど、どのような支援が相互に組むことができるか、多くの課題がありますが、従来各地で行われている広域協定にとどまらず、地域福祉、居住福祉などさまざまな専門分野の教員の協力を得つつ大地震対策を充実させようという取り組みが始まりました。



長野県人会 今年も大盛況-大学祭模擬店-

11月16日(土)・17日(日)の大学祭で、学生長野県人会が毎年恒例の宮田村のリンゴとトン汁の模擬店を出店。今年は春先の霜の影響で小ぶりのリンゴとなりましたが、味には影響はなく、蜜がのったおいしいリンゴが勢揃い。

「りんご、久しぶりに食べた～」という学生や「毎年おいしくいただいています！」という地域の方々のおかげでリンゴ、トン汁ともに完売。長野県人会の横では、九州県人会や沖縄県人会も郷土食の模擬店を出店し、どの店も大盛況でした。



高遠の未来を拓く 経済学部の学生が観光調査に活躍



11月3日、伊那市の高遠城址秋まつりの会場で、日本福祉大学と高遠高校の連携によるアンケート調査が行われました。高校生は同校情報ビジネスコースの生徒、学生は経済学部教職課程ゼミの有志と社会福祉学部・経済学部協同の「地域研究プロジェクト」、経済学部鈴木ゼミの合同チームで、以上調査員は30名を超えました。

これは伊那市観光協会などの「高遠城址の秋のイベント」に関する観光データを集めたいので協力してほしい、という依頼がきっかけ。

大学と高遠高校はこれまで2年間にわたって高遠町内の地域資源フィールド調査を行ってきましたが、観光地での対面調査は高校生にとっては初めての体験でしたから、調査用紙の設定、ねらい、求めるデータの関連や構造など、指導教員の鈴木健司准教授の2度にわたる事前学習が行われ、経験のある学生と連携しながら活動しました。

調査の回答は234件を集計

今回の調査結果は、11月16日(土)に美浜キャンパスで両校による合同発表会でそれぞれ生徒、学生代表が発表しました。

学生の発表のなかで注目されたのが、参加者の「満足度」の項目。通例では5段階で質問するケースが多いところ、「このイベントにお金を払ってもよい金額」＝金額の評価額＝を訪問回数(リピーターかどうか)と交通経路・交通手段からコストを計算し、その相関関係から満足度を「金額」として評価した点です。

実際に調査では初めて体験する高校生を学生がフォローする場面や長野県内来場者が、高校生・学生の活動に共感して激励されるなど、学生自身もこれまでのフィールド調査では実感できなかった体験をすることができました。

調査結果をこれからの地域イベントの充実に活かすことが期待されます。

今年の天候はリンゴにとっても厳しかった！

～宮田村「友好のリンゴの木」の収穫～

11月17日、日本福祉大学の留学生と地域研究プロジェクトの学生が参加して、宮田村から寄贈されている「友好のリンゴの木」の収穫が行われました。



今年は春先の霜害、夏の高湿、秋の豪雨や高温などたいへん厳しい状況があり、友好のリンゴの木を育てている清水さんの農園でも同じような被害を受けましたが、小ぶりながらも口にしてみると、いつもと変わらないこれぞ信州のリンゴ！

「こんなに甘いリンゴは初めて食べた」など、リンゴ農家への賞賛の声が聞かれました。

学生たちは、これに先立って、収穫祭の全体会場でリンゴのお礼に、大学の地元・美浜のミカン30キロを無料配布し、知多のミカンを紹介しました。



また収穫したリンゴはリンゴパンの材料となったほか、大学の地域研究センター、障害学生支援センター、そして東日本大震災の救援活動を継続している災害支援センターに届け、ボランティア活動を継続している学生たちに、宮田村とリンゴをアピールしました。

親子で体操

その他、宮田村では11月18日、山本子ども発達学部長による宮田村子育て講座が開かれ、親子を対象に体操教室と子育てについての講演が行われました。

あなたの学生生活に信州を+、 信州にあなたの学生生活を+!

日本福祉大学セミナー 長野市、伊那市で開催されました

今年10月に長野市で学長補佐の原田正樹社会福祉学部教授が、「福祉教育の広がり」と深まり「共生文化創造への途」、伊那市では学生部長の曲田浩和教授が、「地域の学び方と活かし方」信州と知多」と題して講演。

両会場には父母のほか、それぞれのテーマに関わる団体、機関からの参加者もおり、講演後、これからの交流について意見交換する場面も見られました。

セミナー後半は学生生活や進路問題などで教職員とそれぞれ個別相談があり、父母・教職員の協力です。



(長野市会場の様子)

12月1日、いよいよ就職活動が本格化するにあたり、松本オフィスでは長野県同窓会、学生県人会と協力して、11月末に「同窓生との相談会」を実施し、同窓会からは副会長の杉田義夫さん(前佐久総合病院医療相談室長左写真)が出席。授業の合間を縫うようにして、3年生18名が参加し、グループ相談が行われました。

前半の相談グループでは、「医療ソーシャルワーカーを目指しているが、どんな準備が必要か?」「実習が高齢者施設配属だったので、春休みに課外実習をやりたい」という、医療相談室の仕事の最も大事なポイント?」などさまざまな質問が出され、これから1年かけてどのよう準備していくかが話し合われました。

後半の相談では、この日、大規模なキャリア相談会を計画しています。分野別の個別相談を中心に行います。春休みで帰省している人はぜひ参加してください。

3月9日 大集合!

長野県同窓会では今、こうした学生の要望に応えて、3月9日の同窓会研究会(6面参照)に多くの同窓生が参加するところから、この日、大規模なキャリア相談会を計画しています。分野別の個別相談を中心に行います。春休みで帰省している人はぜひ参加してください。

みなで信州に帰ろう! キャリア支援を強めています!



社会福祉って何だろう？ 福祉コースの生徒が知多半島へ

9月14-15日、台風が接近するニュースを気にしながら、上伊那・塩尻・松本地域の4校の先生、生徒あわせて22名による「福祉スタディ・ツアー」が行われました。

ふだんの高校での授業に加えて、ツアーでは日本福祉大学 小松理佐子教授と中村強士准教授による講義と、伊那市社会福祉協議会の伊藤直哉さん(社会福祉士)、豊科病院荒川豊さん(精神保健福祉士)による地域、病院での専門職の活動の紹介。福祉・医療の現場が抱えている問題の解説が行われました。

基調講演の小松教授は「北風と太陽」というイソップ寓話をもとに、「ふくし」を考える発想について問題を提起しました。生徒からは、「大学の先生の話は初めて聞いて、とても緊張した」、「最初、私は知ってる、と思っていましたが、その「考え方」までは思ってもみなかったのでもって新鮮だった」、「実際に福祉の専門家として働いてる人は、迫力があつた」などの意見が聞かれました。



(社会福祉士は何のプロだと思おう？写真中央が伊藤さん)

1泊2日のツアーのため、宿泊は知多半島の「美浜少年自然の家」。夕食後も学校間交流が行われ、交流会後はさっそくメルアドを交換する場面も。

2日目の朝、大学に戻る前に知多の海辺で記念写真を撮りました。(前列右から2番目は、団長の高遠高校の石城校長先生)



(交流会は、他己紹介からスタート!)

午後には、半島の先まで行って、太平洋に叫ぶ、という秘密企画がありましたが、あいにく台風接近中とのことで、午前のプログラムのあとは長野へ。



参加された高校からは、来年度以降も継続して福祉スタディ・ツアーを開催していきたいと要望がありました。



(ふくしって何だろう?)

松本第一高校・東萌実さん 最優秀賞を受賞

第11回高校生福祉文化賞エッセイコンテストが行われ、4部門、総数9、152編の応募作品のうち、最も応募が多かった第一分野「人とのふれあい」3,270編なかで、東萌実さんが最優秀賞を受賞しました。養護学校の重度障がい者クラスの三〇歳年上の「友達」との交流を書いたもの。朝日新聞、市民タイムス(松本市)でも報じられました。

東さんの作品を含む入賞者の「作品集」を希望の方は、松本オフィスまでご連絡を。また大学のサイトでもご覧いただけます。
<http://www.n-fukushi.ac.jp/50th/essay/2013/>

人間の可能性を示すアート

社会福祉施設のアートとクラフトの展示会が開かれました

この作品展のアートディレクターである障害者施設・コムハウスの生活支援員、轟珠江(とどろぎたまえ)さんなどにも数えると300点あまりに達しました。



10月19日(土)、20日(日)の両日にわたって、JR松本駅の東西自由通路を会場に、第5回社会福祉施設のアート&クラフト展が開かれました。長野県中信地区に加え、愛知県内の知的障害者施設も含め、13施設・団体が参加。作品は、小さな「石鹸アート」なども数えらる。



んは、このアート&クラフト展カタログのはじめに「どんな社会の中で障害を抱えて生きていようと、それがどんなに重くても、表現することは自由なのだし、コトバにとられない自由な表現こそが豊かな世界を築いている」と語っています。



これらの作品は松本オフィスブログでも見ることができます。

後援：松本市、松本社協、塩尻社協、安曇野社協、信濃毎日新聞社、NHK長野放送局など13団体

人生のマエストロ(達人)=長寿日本一は長野県

茅野市美術館「寿齢讃歌」

「人生のマエストロ写真展」が開かれました。

「写真を通してお年寄りを元気にする」、「人生の素晴らしさを讃歌する」としてはじめられた高齢者を被写体にする写真展「寿齢讃歌」は今年第8回を迎え、9月14日(土)29日まで茅野市美術館にて開催され、全国から132点の作品が寄せられました。

撮影者は7歳から90歳まで。撮影対象は80歳以上となっており、最高齢は福井県にお住まいの105歳の画家の方でした。撮影地は国内では青森から鹿児島、海外ではスペイン、台湾まで。

また、東日本大震災で大きな被害を受けた石巻からも元気なお年寄りの写真が届きました。これらの撮影の時、どんな会話が交わされたのでしょうか。写真を見ていると、「元気にする」よりも、私たちが励まされるような感じがしてきます。日本福祉大学はこの写真展に協賛しています。この写真の一部は、美浜キャンパスでも展示されました。(写真は茅野市美術館提供)



いよいよ一般入試、センター利用入試へ

日本福祉大学では一般入試、センター入試の出願に際し、1出願でひとつのワクチンを途上国の子どもたちに届けます。

1日4,000人。ワクチンがないために、命をおとす子どもがいます。受験という人生の大きな節目を迎えようとしているあなたに、世界に目を向けるきっかけにしてほしいと願っています。



「1出願で1ワクチン」世界の子どもたちのために

今年も長野県内で願書受付会を開催します。

一般入試およびセンター試験利用入試で出願される方が対象です。願書を手渡し+面談で入学検定料が10,000円割引される出願方法です。ぜひご利用ください。

出願期間中は随時松本オフィス窓口で願書を受け付けています。下記の受付会で日程が合わない方や学校帰りに願書を持参される方は、面談日時の調整をしますので、事前にご連絡の上、ご持参下さい。



長野県内で願書を受け取ります

願書持参+面談で
入学検定料 **10,000円** 割引

長野県内の願書受付会日程

◆長野会場

期日:1月25日(土)
時間:13:00~16:00
会場:JA長野県ビル12F
H会議室

◆松本会場

期日:1月26日(日)・3月1日(土)
時間:13:00~16:00
会場:日本福祉大学松本オフィス

※当日、検定料は振り込まず、出願書類等(記入済み/写真添付)をご持参ください。

※願書受付会詳細につきましては大学HPをご確認下さい。
12月28日(土)~1月5日(日)は松本オフィスは休館となります。

※その他、ご不明な点は入学広報部(0569-87-2212)までお問い合わせください。

■ 大学入試センター試験利用入学試験

	前期日程	後期日程
出願期間 (消印有効)	《全学部出願型》 12/26(木)~1/17(金) 《5教科・3教科・2教科》 1/3(金)~1/31(金) 【直接】 1/11(土)~1/12(日) 1/25(土)~1/27(月)	《2教科》 2/17(月)~3/3(月) 【直接】 3/1(土)~3/3(月)
合格発表	2/15(土)	3/15(土)

■ 一般入学試験

	前期日程	後期日程
出願期間 (消印有効)	【郵送】 1/3(金)~1/27(月) 【直接】 1/11(土)~1/12(日) 1/25(土)~1/27(月)	【郵送】 2/17(月)~3/3(月) 【直接】 3/1(土)~3/3(月)
試験日	2/3(月)・2/4(火) 2/5(水)	3/9(日)
合格発表	2/15(土)	3/15(土)

■ スポーツ推薦入学試験(一般・指定種目)・文化・芸術系部活動など推薦入学試験

	後期日程	
出願期間 (消印有効)	2/10(月)~2/17(月)	※各入学試験の内容については、再度「入学試験要項」、「入試ガイド2014」を必ずご確認ください。
試験日	一般:2/23(日) 指定:各サークル指定	※過去3年間の試験問題と赤本を差し上げます。松本オフィスまでご連絡を!!
合格発表	2月28(金)	

長野県地域同窓会総会・研究集会 および ふるさと実習報告会 開催のお知らせ

長野県地域同窓会は、平成25年度 長野県地域同窓会総会&セミナーを開催します。

今年も大学から原田正樹先生をお迎えし、基調講演を行い、また、県内の各地域において、福祉、医療、保育等各現場で活躍をされている同窓生による実践報告会も開催します。

その他、今年は初めての試みとして、長野県内で社会福祉士実習を行った在学生20名の実習報告会も開催予定です。

当日は、久しぶりの仲間との交流の場として、また人脈を広げる機会として、同窓生をはじめ、在学生や高校生、福祉関係の仕事に従事されている方、誰でも自由に参加できます。ぜひご参加ください。

お問い合わせ、参加申込は日本福祉大学松本オフィスまで。

3月9日の総会には、県内各地から様々な職種に携わっている同窓生が集結します。そこで、同窓生によるキャリア個別相談会を開催します。県内にUターンを希望している方はもちろん、就職活動をどう進めているのか悩んでいる方は、ぜひご参加ください。

今回は福祉職に限らず、一般企業や自治体に勤務されている先輩にもご協力いただく予定になっています。

◆開催日 2014年3月9日(日) 12:00~受付開始

◆会場 松本市総合社会福祉センター(予定)

◆講師 原田 正樹先生

(日本福祉大学学長補佐、社会福祉学部教授)

◆内容 ① 長野県地域同窓会 総会

② 原田 正樹先生 基調講演

③ 長野県ふるさと実習報告会

④ セミナー 同窓生による実践報告会

順番は前後する可能性があります。

詳細は決まり次第松本オフィスブログに情報を掲載します。

同窓生によるキャリア個別相談会を同時開催!!

時間:午前11時~午後12時30分まで ※事前申込必要

参加申込方法や詳細については、松本オフィスブログや学内掲示板でご案内していきますので、定期的にご確認ください。



日本福祉大学 北信越センター 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24 八紘堂ビル3階

TEL (0263)31-9011 / FAX (0263)32-8018

E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

OPEN 月~金 10:00~18:00 CLOSE 土・日・祝



日本福祉大学HP

<http://www.n-fukushi.ac.jp/>

松本オフィスBlog

<http://blog.n-fukushi.ac.jp/bc-matsumoto/>

